

2万haを優に超える広大な耕地をそなえ、令和元年度には農業産出額が300億円を突破。芽室町は北海道・十勝地方においても、年々『農業王国』としての存在感を増しています。

しかし、このまちの農業の魅力は広大な耕地や膨大な産出額だけではなく、ありません。

今月の特集では、*6次産業化や農の魅力発信、新たな作物の生産にチャレンジする生産者の方々をご紹介します。

*6次産業化：農業・水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態を表します。

耕地面積について…

芽室町では、農家1戸あたりの平均で約35haの耕地面積があります。

1haは1万m(100m×100m)が野球場1つ分くらいなので、だいたい野球場35個以上の広い土地を維持管理する必要があります。

基本データ

耕地面積 2万463ha*
農業産出額 約298億円*

* 芽室町農業経営実態調査、生産農業所得統計より、

令和2年度のデータ

さくつけめんせき

作付面積

小麦(令和元年産)全道3位
馬鈴薯(ばれいしょ)(平成30年産)全道2位
大豆(令和元年産)全道8位
てん菜(令和元年産)全道8位

「安心・安全・美味しい」を当たり前



こやま つとむ 小山 勉さん

(株)なまら十勝野代表。自慢の野菜はゴボウ。糖度が高く、香りや風味が良いのが特徴だそうです。趣味はバイク、読書。



◀なまら十勝野 HP

地道な活動が結果

道内の短期大学を卒業後、20歳で就農した小山さん。就農を続けていくうちに、そのまま続けていけるのか」と農業に対する危機感や不安を募らせるようになり「なまら十勝野」の前身としての活動を始めた。『安心・安全・美味しい』を当たり前にしたい。その思いから、卸先の方に直接農場を見学してもらうこともあります。農繁期と重なることもありですが「人と直接繋がる」とが安心感に繋がると小山さんは語ります。



▲今年はサツマイモ栽培にもチャレンジしている小山さん。「収穫が楽しみ」とを緩ませます。

基本は「土づくり」

情報発信や新規作物の栽培など様々な取り組みを行っている小山さんですが、最も大事にしていることは安心・安全、そして「土づくり」だそうです。なまら十勝野では加入3年以内にJGAPの取得を目指すことを目標として定めています。

*JGAP：農作物の安全と環境保全、持続可能な農業経営を確立している農場に与えられる認証のこと。

「小山農場」としては5年サイクルでの輪作体制を徹底。持続可能な農業のための土づくりを心がけているそうです。今年も試験的に休耕地を設けるなど、新たな取り組みも行っています。1年で結果が出ないこともある慌てず取り組みを続けていきたい」と笑顔で語ります。

「農」の魅力伝えていきたい



あわ ひであき 栗野 秀明さん

上美生の栗野農場で営農の傍ら、ホームページや写真・動画で日々の風景を配信。



▲サイト「農産物こうやって作ってます」

農業の魅力を発信

栗野さんがホームページ「農産物こうやって作ってます」で情報発信を始めたのは1998年(平成10年)ころ。当時を振り返り「当時、農業は世間的に3K(きつい、汚い、危険)の印象があったと思う。でも、やってみると大変だが素晴らしい仕事だと感じた」と栗野さん。以来、20年以上にわたり、毎日のようにホームページや写真で営農や作物の情報、農村風景の魅力を発信してきました。

数年前からは本格的にYouTubeでの動画配信を開始。日々の営農風景や愛犬「ヤマトくん」、地域の農業者の皆さん、お孫さんも登場するなど「ありのまま」の生活を配信している。情報発信の中でも動画配信の影響は大きいようで「面識のない人からも『動画見えます！』と声をかけていただくこともある。遠方から直接農場に訪ねてくる方も。家が観光地みたくなっても困るけど」と苦笑い。『編集は大変だけど、好きでやっているから辞めるに辞められない』そう。今後は写真撮影も再開していきたいとのこと。栗野さんの配信活動は、まだまだ続きます。

拘りのある牛肉を生産したい



ひがしはら ひろし 東原 弘哲さん

(有)東原ファーム代表取締役。ファームの飼育頭数は2000頭、飼料用の草地は17ha、デントコーン4ha。従業員数は7名。



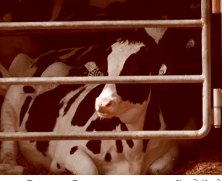
◀東原ファーム HP

肉のうま味を追及

東原ファームは1997(平成9年)創業。ホルスタイン牛の*一貫肥育・販売を行っています。創業当時、東原さんは「ホルスタイン牛で和牛のような美味しい肉をつくる」をコンセプトに、肉のうま味を考え飼料配合や肥育環境の研究を重ねてきました。

*牛肉を作るには、繁殖・出荷まで約20ヵ月かかります。長い時間と労力がかかりますが、これを行うのが「貴肥育」です。

中でも「コプラミール」というココナツの搾り粕を配合した飼料で育った牛は、焼いたとき和牛のような独特の香りがあるそう。こちらは自社ブランド『十勝ココナツ牛』として商標登録されています。



▲伸び伸びとした表情の牛たち

販路開拓も自ら行っている東原さんですが、最近コロナ禍の影響もあり、販売先と直接対面できないことも。それでも「ホルスタイン牛は日々食卓にあがるテーブルミートで、輸入肉に取って代わられる危機感がある。今後とも拘りある肉を作りたい」と力強く語ります。

芽室を新たな落花生の産地に



藤井 信二さん

芽室町の落花生生産者グループ『MEMURO PEANUTS』代表。情報発信、イベント開催など精力的に活動中。



MEMURO PEANUTS HP ▲



▲「主要作物あつての落花生栽培。輪作をしっかり守ることを大切にしています」と真剣な表情

答えのない栽培にチャレンジ
藤井さんが落花生の栽培を始めたきっかけは、JAめむろ青年部での活動。当時は青年部の取り組みの一環として栽培していました。
落花生は温暖な気候を好むため、北海道での栽培は難しいとされてきたそうです。が、フウハウが確立されていない、答えのないものにチャレンジする楽しさがあったと藤井さん。
落花生を「自分の作物」と感じたことから、最初は4人のメンバーで本格的な栽培をスタートしました。落花生の名産地である

千葉県を視察しノウハウを学ぶ中、北海道との気候の違いが壁となることもありましたが、千葉県では、収穫後の乾燥は畑への「野積み」が主流。藤井さんも1年目には同じ方法を試しましたが、上手く乾燥せずカビだらけになってしまったそう。生育が順調だっただけに落胆も大きいものでしたが、以降は機械乾燥に切り替えるなど、独自のノウハウを積み上げてきました。
「チャレンジを楽しむ」
現在、耕地面積を8haまで拡大したMEMURO PEANUTS。

「芽室といえばスイートコーンの町だが、それに続いて「ピーナッツの町」と言われるくらいにしたい」と笑顔で語る藤井さん。チャレンジはまだ続きます。

拘りのある野菜を消費者へ



菊地 英樹さん

（株）ファームミリオン代表取締役。20代の頃に調理師免許を取得しており、料理人として腕を振るうことも。



「ファームミリオン」HP ▲

野菜への拘り

ファームミリオンは2010平成22年創業。野菜の生産から自社工場での加工品製造まで行っています。ニンニクやゴボウ、山わさびなど多品目の野菜を生産する理由について「作ったら喜ばれるものを育てている中で、こうなると菊地さん。以前は、畑作4品も栽培していましたが、現在は殆どを野菜に切り替えたそうです。
*小麦・てん菜・豆類・馬鈴薯を基本の畑作4品としています。様々な食品の原料となるもので、十勝の農業基盤を支えています。加工品の製造までを一貫して行う理由について、



▲めむろワイナリーでは、菊地さんが育てたブドウを使ったオリジナルボトルも販売されています

菊地さんは「北海道は採れる素材がいい分、料理はいま一つと言われることがある。でも、良い食材からしか良い加工品はできない。加工品を通して素材の良さを伝えていきたい」と語ります。
ブドウ栽培への挑戦
数年前からは「山幸」などブドウの栽培も開始。本来、ワイン用ブドウは温暖な気候を好むといわれています。そのため、秋の終わりに苗木を冬囲いするなど、取り扱いには注意を払っているそう。手間がかかっている分、味には自信があり「木が生きよとするのか、ワインに適した良い酸味のものを探れている」と太鼓判。目指すは「世界一のワイン」。今年の収穫にも、大きな期待がかかります。



魅力的な農村風景、人、産品が芽室町の「農」を支えています



▲栗野さん撮影の一枚。『とかち農業・農村フォトコンテスト』ほか多数の入選歴がある栗野さん。

「日高山脈、パッチワーク状の農村風景は世界に誇れるもの。これからは十勝・めむろの時代」とコメント
◀ピーナッツを使った加工品やTシャツなどのグッズ、更には公式ソング(!)まで展開されています



MEMURO PEANUTS



東原ファーム



廣田農園



ファームミリオン



ココが気になる！

めむろの農業



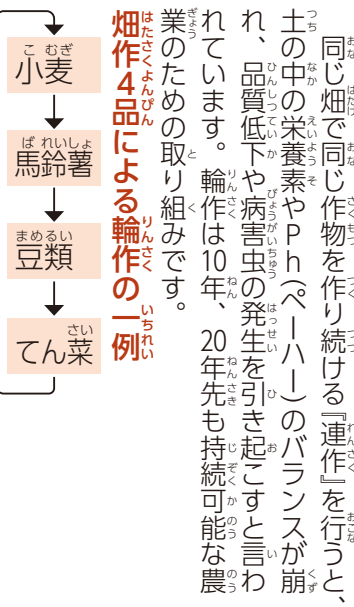
Q どうして芽室の農作物は美味しいの？
芽室の農作物を販売するイベントや直売所には、毎年多くのリピーターが訪れています。なぜ、芽室の農作物は美味しいのでしょうか。

A 関係者の尽力、営農に適した気候が美味しさの鍵
生産者の皆さんの日々の営農努力はもろろんのこと、町とJAとが共同運営する「芽室町農業振興センター」、国・道の試験研究機関などが農業経営をバックアップしています。

また、十勝・芽室町は日本有数の晴天率を誇り、夏は30度、冬は氷点下20度以下にもなる寒暖差が大きい気候です。寒暖差が大きいと、作物の糖度が高まり美味しくなるといわれています。

Q どうして毎年違う作物を作っているの？
同じ畑で毎年同じ作物を作る方が楽なのでは？
なぜ、違う作物を作っているのでしょうか。

A 土壌成分のバランスを保ち、持続可能な営農を行うため
同じ畑で同じ作物を作り続ける「連作」を行うと、土の中の栄養素やpH（ペーハー）のバランスが崩れ、品質低下や病害虫の発生を引き起こすと言われています。輪作は10年、20年先も持続可能な農業のための取り組みです。



「身近な生産者」でありたい



由美さん

畑の駅（東芽室南2線27）で、看板犬「るうひい」ちゃんと一緒に撮影。営業は5～10月。その他期間は通販も行っている。



「廣田農園」HP ▲

拘りの無農薬・無化学肥料栽培
廣田さん夫妻は2016平成28年から、町内で無農薬・無化学肥料の栽培を始め、今年で7年目。直売所畑の駅にはトマトやキャベツのほか、ホップや空心菜など珍しい品目が並び、毎年多くのリピーターが訪れています。
毎年がチャレンジ
元々は札幌で暮らしていた廣田さんご夫妻。東日本大震災をきっかけに、依存を減らした生き方を考えるようになり、就農を決意しました。ゼロからのスタートだったことから「資材を買いすぎたり、そもそも野菜がどのような過程で、最終的にどんな形になっしていくのかも分からず…」と就農当初を苦笑しながら振り返る廣田さん夫妻。今でも毎年新しい品目に

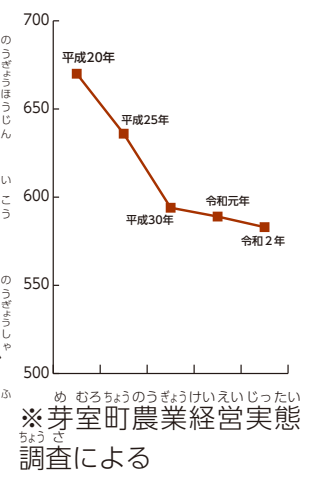


▲ HIROTA “の”ENという表記も「縁」を大切にしたいから

人との縁と同じくらい大切にしているのは多様性。「虫」といっても害虫だけでなく、益虫もいる。大きな野菜が好きな方もいれば、小さいダイコンが好きな方も。今後も収穫体験の受け入れや苗の販売などを通して「お客さんと楽しみを共有したい」と由美さん。来シーズンはどんな作物が並ぶのでしょうか。

Q 今後、めむろの農業はどうなっていくの？
毎年、農家の戸数が減っていると聞きました。今後の芽室の農業はどうなっていくのでしょうか。

A 農業法人が増加し、経営の規模が大きくなると予想されます



農業法人に移行する農業者が増えたことから、農家戸数が実際よりも減っているように見えています。現在、町内の農業法人の数は58あり、今後増加していくと予想されます。

A DX化が推進され、効率化が図られます

経営の大規模化、高齢化や担い手不足による労働力不足が進む中、農業のさらなる発展に向け「仮称」芽室町農業DX構想を策定すべく、協議を進めています。
（DX：デジタルトランスフォーメーションの略）
農業DX構想によって、例えば、こんなことができるかも…
① 町への申請・提出書類がお手元のパソコンやスマホ・タブレットで可能に！
② 町、JA、農業者間での作付図面等の情報共有・活用

まちのうごき

9月8日

小山農場

なおみちカフェ 鈴木北海道知事が芽室町を訪問



北海道知事の地域訪問「なおみちカフェ」で鈴木直道知事が来町され、小山勉さんが代表を務める「株式会社なまら十勝野」の取り組みを視察されました。朝採りのスイートコーンや1年熟成されたじゃがいもの試食も鈴木知事に好評で、おいしさに笑顔がこぼれました。十勝晴れの空の下、鈴木知事、小山代表、芳賀十勝総合振興局長、そして、手島町長の4者によるトークも充実した時間となりました。こうした事業を通し、今後ますます芽室の「農」そして「人」の魅力が発信されることを期待したいですね。

9月10日

伊藤美佐子さん

100歳おめでとうございます



9月10日に100歳を迎えられた伊藤美佐子さん(中伏古)に、芽室町から感謝状と敬老祝金が贈呈されました。贈呈時には家族や親族の方が同席し、伊藤さんの長寿をお祝いされていました。伊藤さんは町内で畑作に携わられておりました。趣味はダンスやゲートボールで、特にゲートボールは柏樹学園で96才まで続けられてたそうです。また昨年までは自宅のハウスの世話をして日々を過ごされていたとのことでした。伊藤さん、これからも元気でお過ごしください。

9月28日

めむろ〜ど

体力測定会の結果説明会を実施!!



8月末に実施した体力測定会の参加者に結果説明会を行いました。講師から、体力測定会で実施した測定種目の意味合いの説明や、体力維持の必要性を日常生活に関連させる講話がありました。講話後には、町で行っている「まる元運動教室」の体験会(写真)を実施しました。芽室町の高齢者の皆さんに、元気でいきいきとした生活を送ってほしいという思いで、介護予防教室を実施しています。今回の結果説明会をきっかけに、教室の体験を希望された方もおり、介護予防に関心をもっていただく機会となりました。人生100年時代の一步を踏み出せたのではないのでしょうか。

令和4年度まだまだ

町内

B・Bは次にどこに現れる？



4月に「めむろ魅力発信特別アドバイザー」に就任した北海道日本ハムファイターズの球団マスコット「B・B」は、芽室町の様々な場所で魅力を存分にPRしてくれています。10月15日(土)には、ウォーキングイベント「FOOTSTEP FUND(あしあと基金)」で再び来町するほか、今後も冬のイベントなどまだまだ登場予定とのことです。次に来る予定が分かり次第、いろいろな手法でお伝えしますので、どうぞお楽しみに！

B・Bが書いているブログです→



今回のテーマは 芽室町での子育て

今回は、子育て中の皆さんが比較的参加しやすい平日午前の時間を設定しました。

手島町長の流汗悟道 チャンネル2022

昨年度からはじめたYouTubeライブでの配信による「めむろ☆未来ミーティング」です。視聴者の皆さんからコメントを受け付け、町長が答えします。

10月21日(金)10時30分〜11時30分※コメントできるかなどのテスト放送 9時15分〜10時15分パソコンやスマートフォンからYouTubeの「芽室町公式チャンネル」をご覧ください。※どなたでも視聴できます。「コメント」を送信する場合は別途YouTubeアカウント登録が必要です(登録無料)



政策推進課広報広聴係
62・9721 2階



オンラインでのめむろ☆未来ミーティングはココがイイ！途中で入退室OK！

オンラインであれば気軽に途中で入退室できます。普段の未来ミーティングでは学校やお仕事で時間帯が合わないという方は、まず15分だけでも覗いてみませんか。

●落ちて着いてコメントできる！「質問や意見を言うとき、いざマイクを向けられると話がまとまらなくなってしまう」という方も、チャットで落ち着いて質問や意見のコメントを送ることができます。

●聞くだけの参加も大歓迎！「必ず発言しなくてはいいけない？」そんなことはありません！普段ラジオを聞くときのように、リラックスして聞くだけでも大歓迎です。

「災害に立ち向かうために」

芽室町長 手島旭



食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋などと言われる季節となりました。同時にこの時期は災害が起きやすい季節でもあります。今年の台風シーズンも過ぎたように思いますが、昨年には暴風、今年も暴風雨に見舞われたこともあり、どんな災害がいつ降りかかってくるかわかりません。数年前、平成28年の水害をきっかけに、水害を被った全国の市町村長が集まり意見交換する「水害サミット」という会合に参加する機会がありました。その際、災害や防災対策の第一人者である東京大学大学院の片田敏孝教授から、以下のお話がありました。

「災害過保護」：「災害発生後はいつも「状況把握」→「反省」→「対策案」→「住民周知が必要だ」という流れの繰り返しであり、結局これまでも

住民主体の防災対策にはなかなか至らないのが全国的な傾向である。行政が知識、情報、避難路や避難所を伝え、住民の意識・行動を全力でサポートすることは重要であり必要である。役割ではなく「行政主導」には限界があるという。災害対策はすべて行政が担えるものでなく、命を守るのも行政と言いかねない風潮がある。つまり「災害過保護」状態なのである。この状態を打開して、災害に対応するためには「行政の力」はもちろん必要だが、「住民の主体的な姿勢」による意識の転換と自助の双方が必要であり、住民の意識転換のためには「他者との関わりの中で考える命の教育」↓家庭の中や地域内での連携や思いやり、つまり地縁、家族愛、地域愛、郷土愛が根底に必要である。というお話でした。

災害時には住民のみなさんの危機意識と行動が必要となります。行政として全力サポートと意識啓発のための活動を続けつつ、お一人お一人が災害に対する情報収集、必要物品の準備、避難のイメージなどを考えていただくことが「災害に立ち向かう」第一歩となるのだと思います。